



# コマツのサステナビリティ推進の取り組み

コマツ

常務執行役員 サステナビリティ推進本部長

横本美津子

2022年12月15日

# 目次

**1.サステナビリティ推進本部の役割・体制**

2.サステナビリティ基本方針

3.FY22～24中期経営計画におけるESG課題の解決

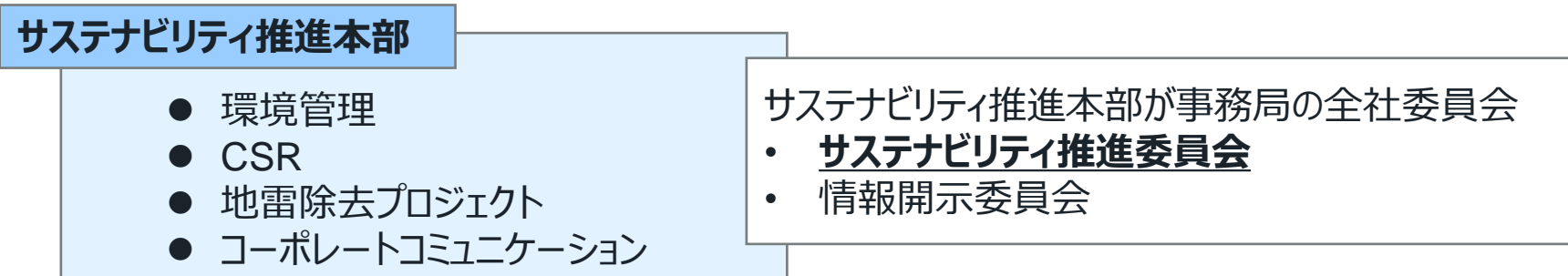
4.サステナビリティ推進本部のその他の活動について

# サステナビリティ推進本部について

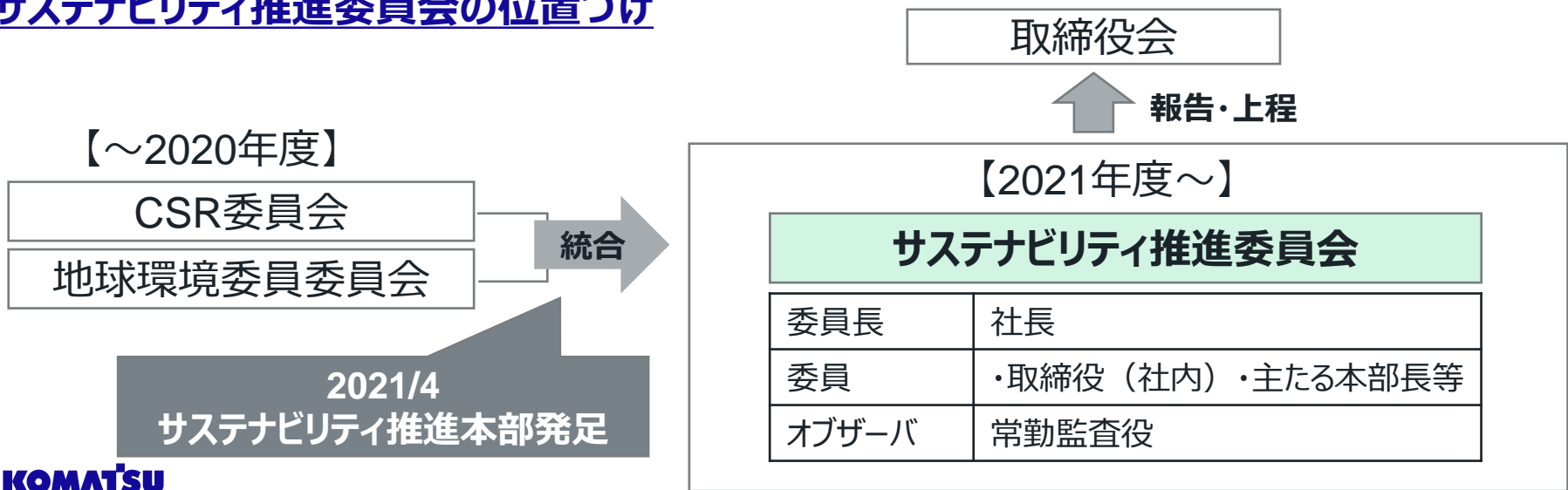
## サステナビリティ推進本部の設立

- ▶ コマツグループのサステナビリティ経営推進に関する業務を統括するサステナビリティ推進本部を2021年4月に新設。ESGのうちE・Sについて推進する役割・機能を持つ。
- ▶ あわせて、すべてのステークホルダーに、コマツグループのサステナビリティ経営に関する考え方や活動を伝えていくことも本部の重要な役割。

## 組織・体制



## サステナビリティ推進委員会の位置づけ



# 目次

1.サステナビリティ推進本部の役割・体制

**2.サステナビリティ基本方針**

3.FY22～24中期経営計画におけるESG課題の解決

4.サステナビリティ推進本部のその他の活動について

# コマツの存在意義：私たちの存在意義・価値観・ブランドプロミス

## 【私たちの存在意義】

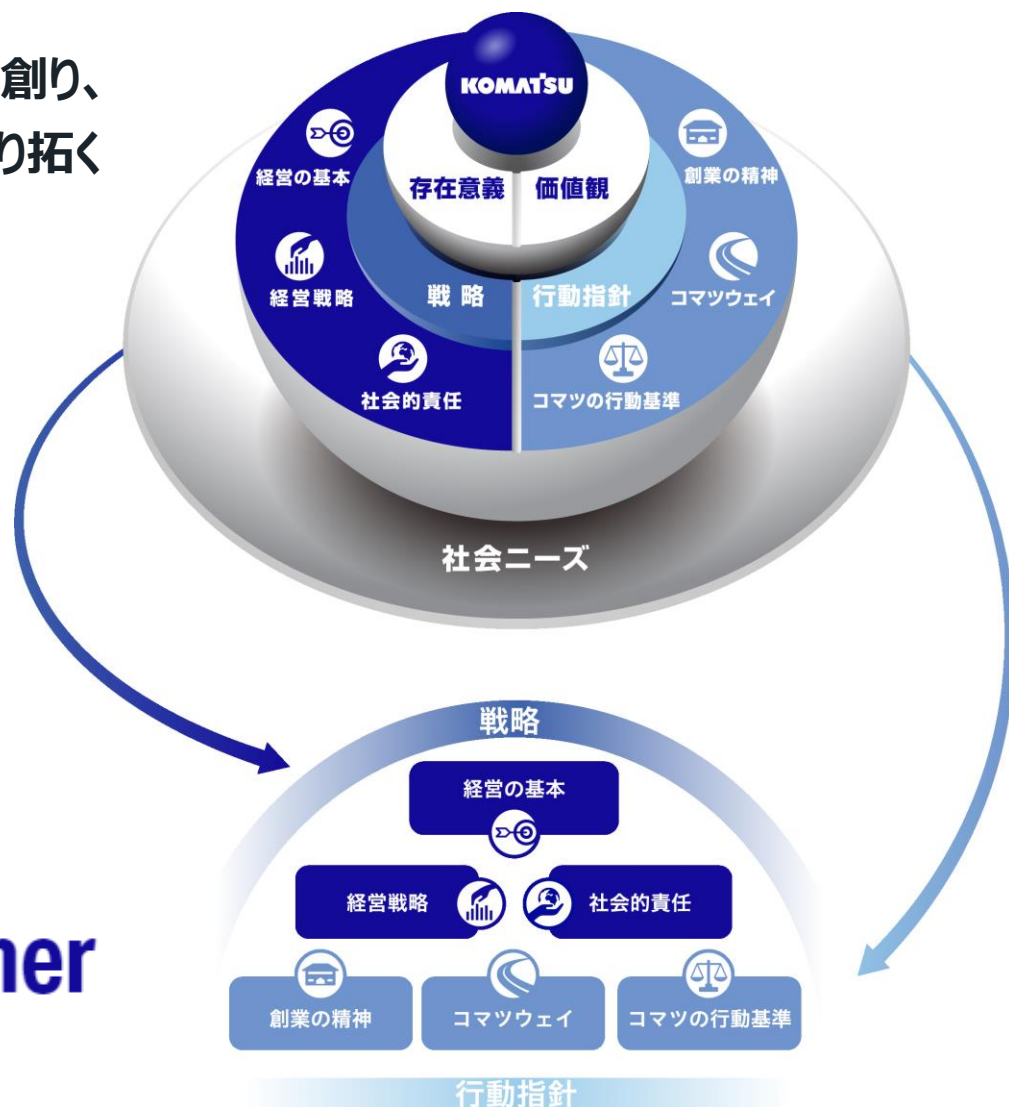
ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、  
人、社会、地球が共に栄える未来を切り拓く

## 【私たちの価値観】

- ・ 挑戦する
- ・ やり抜く
- ・ 共に創る
- ・ 誠実に取り組む

## 【ブランドプロミス】

Creating value together



# コマツの存在意義：存在意義を実現する戦略の考え方

## 戦略

存在意義を実現するための基本となる考え方

経営の基本



「品質と信頼性」を追求し、社会を含むすべてのステークホルダーからの信頼度の総和を最大化する

存在意義・経営の基本を  
実行するための戦略

経営戦略



中期経営計画

顧客価値創造を通じたESG課題解決と収益向上の好循環サイクルを生み出し、持続的な成長を図る

社会貢献に関する  
基本姿勢

社会的責任



事業活動を通じてESG課題解決を行い、持続可能な社会づくりに貢献する

企業活動における事業継続性に関する指針

サステナビリティ基本方針

更なる持続可能な社会の実現と事業の成長を目指す

# サステナビリティ基本方針

私たちは、これまで「品質と信頼性」を追求し、社会を含むすべてのステークホルダーからの信頼度の総和を最大化することを「経営の基本」とし、ステークホルダーとの強い信頼関係を築く努力を重ねてまいりました。

地域社会との共生を目指す精神は創立時から脈々と受け継がれており、事業活動を通じた社会貢献が当社の基本的な姿勢です。

私たちの存在意義は「ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、人、社会、地球が共に栄える未来を切り拓く」ことです。私たちは、これからも、持続可能な社会の実現と事業の成長のために、重要な課題に取り組み、社会や外部環境の変化に柔軟に対応できる企業グループとして、コーポレートガバナンスの一層の充実を図り、ステークホルダーと共に社会に貢献してまいります。

## 人、社会、地球と共に栄える未来を切り拓くために、私たちが行うこと

### 人と共に

- ◆多様でグローバルな人材が、個を尊重しつつ、一つのチームとして、やりがいと誇りを持って、安全・健康に働くことができる環境を提供します。
- ◆さまざまな現場や地域の課題解決のために挑戦を続け、新たな価値をお客さまと共に創り、社会に貢献できる人材を育成します。
- ◆コマツグループとして、すべての事業活動に関連する人権を尊重します。

### 社会と共に

- ◆持続可能なインフラ整備と資源開発および循環型社会を実現する安全で生産性の高い商品・サービス・ソリューションをお客さまに提供し、事業活動を通じて社会に貢献します。
- ◆取引先や地域社会と相互に信頼しあい、公正かつ共存共栄を可能とする関係を築きます。
- ◆法令をはじめとした社会のルールを遵守すると共に、社会を含むすべてのステークホルダーからの要請や期待に誠実に応えるよう努めます。

### 地球と共に

- ◆あらゆる事業活動を通じて、先進の技術を駆使して環境負荷を低減し、地球環境の保全に努めます。
- ◆ものづくりと技術の革新で、地球環境の保全と事業の成長の両立を図ります。
- ◆ステークホルダーとの協働・共創を推進し、より良い地球と未来の実現を目指します。

株式会社小松製作所  
代表取締役社長（兼）CEO

小川 啓之

# 目次

1.サステナビリティ推進本部の役割・体制

2.サステナビリティ基本方針

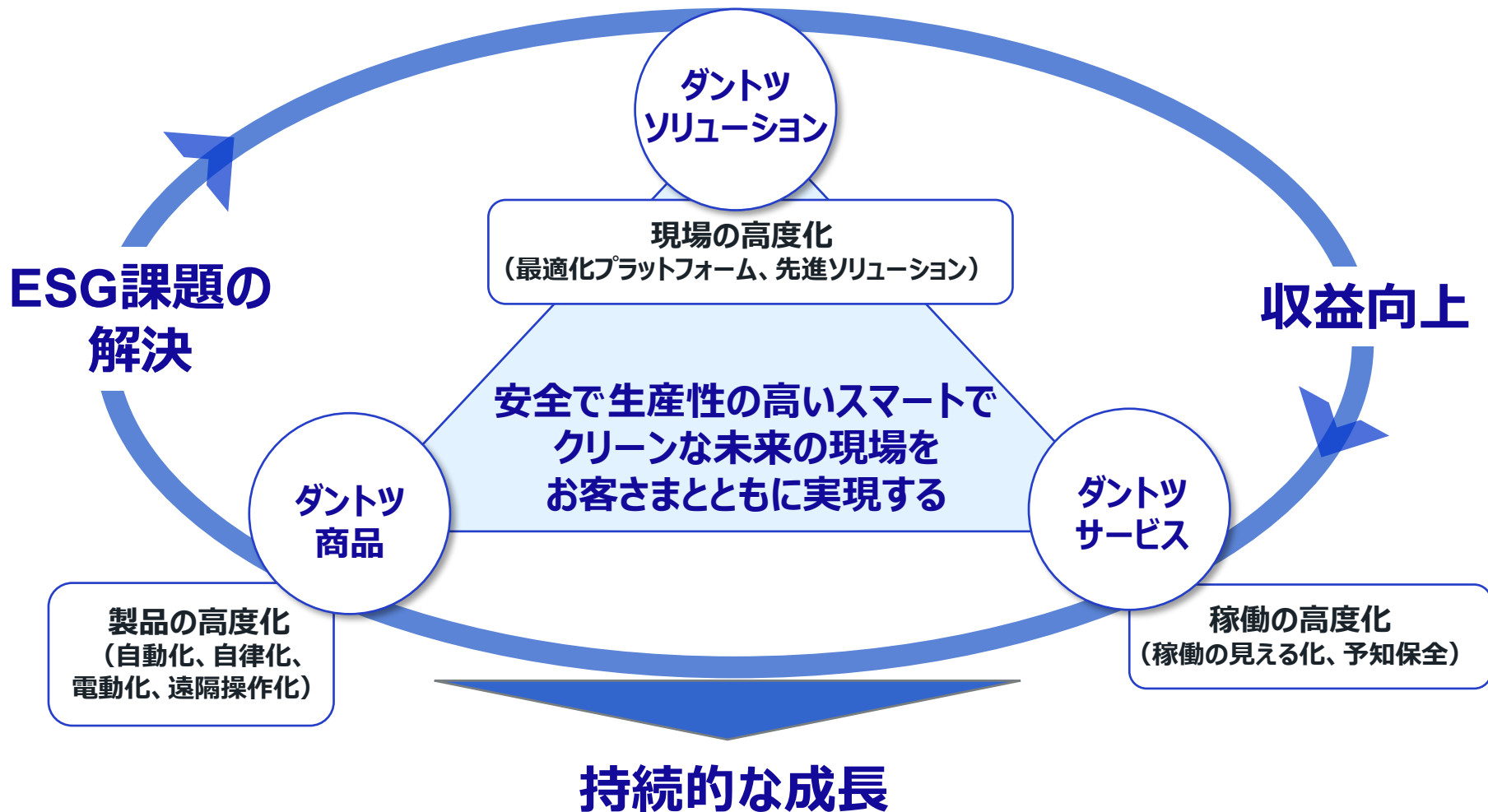
**3.FY22～24中期経営計画におけるESG課題の解決**

4.サステナビリティ推進本部のその他の活動について



# DANTOTSU Value

ESG課題解決と収益向上の  
好循環を生み出す顧客価値創造



# 新中期経営計画（2022年度～2024年度）：外部環境の変化

外部環境は大きく変化し、不確実性が高まっている。

## 政治・経済

- 米中競争の激化と経済安全保障リスク
- 中国：国内政策と経済・外交政策の影響
- 地政学リスクの増大（ウクライナ情勢等）
- サプライチェーンの不安定化
- 有事への対応力の必要性増大（感染症、自然災害も含めて）

## 技術

- デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速
- 先進技術の発展、オープンイノベーション（自動化、電動化、遠隔操作化、AI 等）
- SaaS (Software as a Service) の拡大
- データ・アナリティクスの進化
- サイバーセキュリティリスクの増大

## 環境・エネルギー

- 気候変動、脱炭素化への機運の高まり（COP26：1.5℃目標を確認）
- カーボンニュートラル化への加速
- EV化の進展（自動車産業）
- 水セキュリティ、生物多様性保全
- グリーン投資拡大、情報開示要請の高まり

## 社会・価値観

- ダイバーシティ&インクルージョンの普及（ジェンダー、障がい者、LGBTQ 等）
- 多様な働き方の進展
- 社員エンゲージメントの重要度の高まり
- 人権・企業倫理に関する社会的要請の高まり
- ガバナンス・リスク管理の高度化

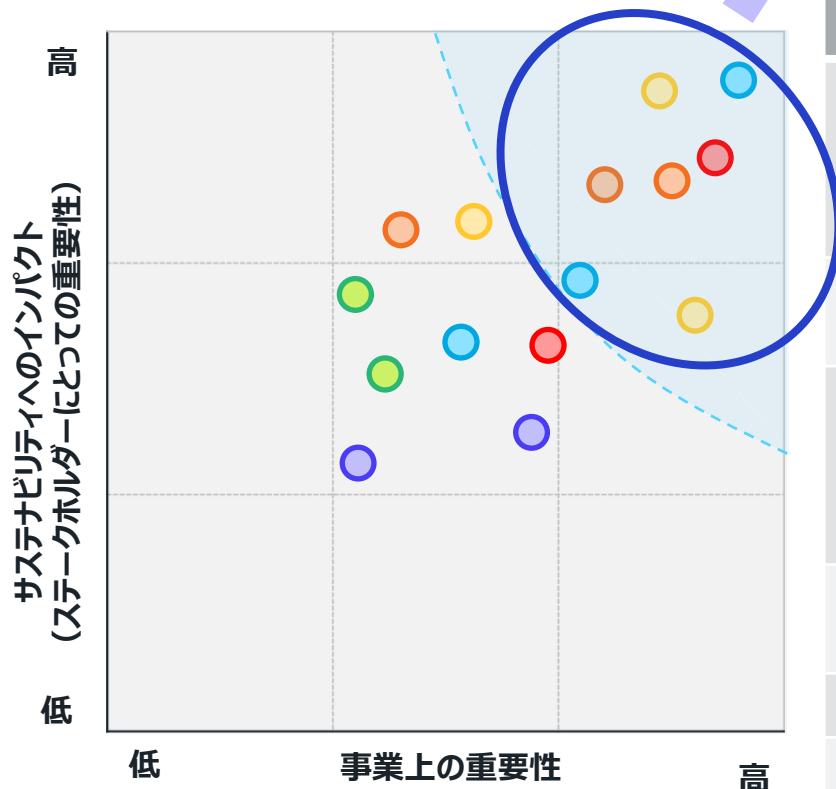
持続可能な成長に向けた基盤づくりが課題。

# 中期経営計画（2022年度～2024年度）：コマツにおけるマテリアリティ

コマツにおける重要性と、ステークホルダーにとっての重要性が重なるエリア：  
**環境、顧客、社員、ガバナンス** の4分野における課題を最重要課題として認識し、成長戦略に反映

## 【マテリアリティ（重要課題）分析】

- 環境
- 倫理・統治
- 顧客
- 人権
- 社員
- 地域社会



分析によって判明した  
**最重要分野と具体的な課題**

中期経営計画  
**成長戦略**

マテリアリティ	
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 低炭素・環境負荷低減へのソリューション開発</li> <li>➢ 資源循環</li> <li>➢ エネルギー使用量の低減</li> <li>➢ 事業活動を通じた森林保全への貢献</li> </ul>
顧客	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ソリューション提供</li> <li>➢ 製品安全・品質</li> </ul>
社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 労働安全衛生</li> <li>➢ エンゲージメント向上</li> <li>➢ ダイバーシティ&amp;インクルージョン</li> <li>➢ 能力開発</li> </ul>
倫理・統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ コーポレートガバナンス</li> <li>➢ コンプライアンス</li> </ul>
人権	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 人権の尊重</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域社会への貢献</li> </ul>

# 【参考】新中期経営計画（2022年度～2024年度）：成長戦略におけるおもな重点活動

## 1. イノベーションによる成長の加速



### 現場を最適化する新たな顧客価値の創造

- DXスマートコンストラクションの推進、海外展開
- 鉱山用オープンテクノロジープラットフォームによる事業推進
- プラットフォームと親和性の高い高度化した商品開発・市場導入

### カーボンニュートラルに向けた価値（モノ・コト）づくりの挑戦

- 電動化機械の開発・市場導入
- スマート林業の普及・拡大
- 地球環境負荷ゼロ工場

## 2. 稼ぐ力の最大化



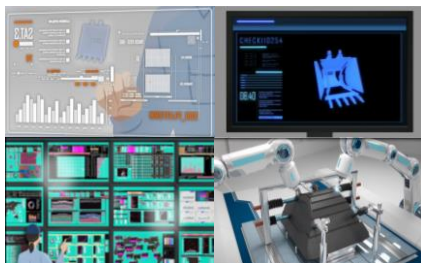
### 成長市場におけるプレゼンス拡大

- アジア・アフリカ市場への取り組み強化
- 林業機械事業、坑内掘りハードロック事業の拡大
- アフターマーケット事業の拡大

### バリューチェーンビジネスの進化による更なる成長

- データ・ドリブン・ビジネスモデルの構築
- ライフサイクルサポートビジネスによる差別化の推進
- リマン・リビルド事業の拡大

## 3. レジリエントな企業体質の構築



### 効率的な事業運営とリスクマネジメントの強化

- 環境変動に強い生産調達体制の強化（マルチソース比率の拡大）
- 経済安全保障リスクのアセスメントと体制の整備
- グローバルなブランド戦略の展開によるコーポレートブランドの強化

### 多様性に富む人材基盤の充実化

- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 多様な能力開発機会の提供とエンゲージメントの向上
- デジタル人材、オープンイノベーション推進人材の育成

# 経営目標について

- 経営目標は、成長性、収益性、効率性、健全性、およびESGの構成・内容を継続とし、ESGには、新たに、2050年にカーボンニュートラルを目指すチャレンジ目標を追加。
- 株主還元は、成長戦略への重点投資を優先しながら、安定的な配当の継続に努める方針を継続

項目	経営指標	経営目標
成長性	売上高成長率	業界水準を超える成長率
収益性	営業利益率	業界トップレベルの利益率
効率性	ROE	10%以上
健全性	ネットD/ELシオ	業界トップレベルの財務体質
リテール ファイナンス事業	ROA	1.5% – 2.0%
	ネットD/ELシオ	5倍以下

ESG	環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>排出削減：2030年50%減（2010年比）</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>2050年 カーボンニュートラル (チャレンジ目標)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギー使用率：2030年50%</li> </ul>
	外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DJSI*選定（ワールド、アジアパシフィック）</li> <li>・CDP** Aリスト選定（気候変動、水リスク）</li> </ul>

株主還元	連結配当性向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長への投資を主体としながら、株主還元(自社株買いを含む)とのバランスをとる</li> <li>・連結配当性向を40%以上とする。</li> </ul>
------	--------	--

# コマツの目指す、ありたい姿：2050年 カーボンニュートラル宣言

2030年までのCO2排出量削減目標\*の先を見据え、2050年までにカーボンニュートラルを目指し、脱炭素社会に向けた価値づくりに挑戦。

- 生産技術改革による高効率化および様々な製品開発アプローチへの対応（技術パートナーシップの拡大）
- お客さまの現場全体の最適化を通じた効率改善および循環型ビジネス（林業機械、リマン\*\*事業）の推進

(\*CO2排出量：2010年比50%削減、再生可能エネルギー使用比率：50%)

(\*\*リマン：リマニュファクチャリングの略)

## 生産

(Scope 1+2：自社排出)

### ● 省エネルギー

生産性向上・高効率化によるエネルギー消費の縮減

### ● 創エネルギー

再生可能エネルギー設備の導入  
(太陽光、バイオマスなど)

### ● 再生可能エネルギー購入

認証されたグリーン電力購入や  
カーボン・クレジットの取得など



## 開発

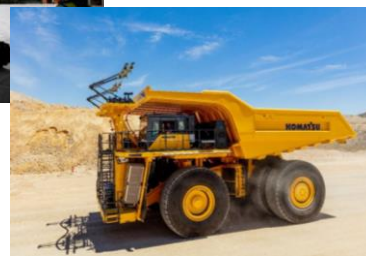
(Scope 3：製品使用時)

### ● 作業効率向上・燃料消費量の削減

(内燃機関：ディーゼルエンジン)

### ● よりクリーンな動力源への移行

- ハイブリッド
- バッテリー式／有線式 電動
- 燃料電池
- 水素／バイオ燃料／e-fuel内燃機関



## お客さまの現場

### ● 顧客現場オペレーションの最適化を通じた効率改善

- DXスマートコンストラクション
- 鉱山用オープンテクノロジープラットフォーム

### ● 林業機械事業による貢献

- 植林・造林・育林・伐採のあらゆる工程の機械化
- スマート林業



### ● リマン\*\*事業による貢献

- コンポーネントの再生・再利用  
(資源節約、廃棄物削減)

# ESG課題解決に向けて：サステナビリティ基本方針とおもな活動テーマとSDGs

ESG課題解決に向けたおもな活動は、KPIを設定して、進捗を管理。詳細は、統合報告書にて開示

	SDGsとの関係	マテリアリティ（重要課題）	ESG課題の解決に向けた活動テーマ（主なKPI）
人と共に	 ジェンダー平等  働きがいと経済成長  不平等をなくす  パートナーシップ	<b>[社員] [人権]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全衛生</li> <li>エンゲージメント向上</li> <li>D&amp;I推進</li> <li>能力開発</li> <li>人権の尊重</li> </ul>	安全で安心して働ける職場環境づくり（労働災害関連指標） 社員エンゲージメントの向上（エンゲージメントサーベイスコア） ダイバーシティ&インクルージョンの推進（女性、障がい者比率） 個人の能力開発と事業成長の実現（DX・AI人材教育） 人権デューデリジェンスの推進（実績開示）
社会と共に	 産業と技術革新の基盤をつくろう  まちづくり  つくる・つかう責任  パートナーシップ	<b>[顧客] [倫理・統治] [地域社会]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソリューション提供</li> <li>製品安全・品質</li> <li>ガバナンス</li> <li>コンプライアンス</li> <li>地域社会への貢献</li> </ul>	スマートコンストラクション推進による建設現場の生産性向上（導入現場数） 持続可能な資源開発を実現する製品・ソリューションの提供（AHS累積導入台数） 顧客現場の安全性・生産性向上ソリューション：技術開発（自動化、安全装置 開発ステージ） 環境・需要変動に対応力のあるバリューチェーンの構築（アフターマーケット事業：売上伸び率、マルチソーシング比率） ガバナンスの充実、コンプライアンスの徹底（実績開示）
地球と共に	 クリーンエネルギー  産業と技術革新  つくる・つかう責任  気候変動への対策  陸の豊かさ  パートナーシップ	<b>[環境]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素・環境負荷低減へのソリューション開発</li> <li>資源循環</li> <li>エネルギー使用量の低減</li> <li>事業を通じた森林保全への貢献</li> </ul>	地球環境負荷ゼロ工場（CO2低減、再エネ使用、水使用量） 顧客現場におけるCO2排出削減（製品使用のCO2低減、電動化建機開発） 持続可能な循環型林業を支援するソリューション提供（林業機械事業関連指標：売上伸び率、植林、スマート林業等） 循環型ビジネス（リマン）の促進（リマン事業：売上伸び率）

# サステナビリティ基本方針と中期経営計画のKPI

- 中期経営計画の重点活動から、サステナビリティ基本方針に沿った活動をピックアップし、29個のKPIを設定・公表。24年度目標に向け、毎年コマツレポートにて達成状況を報告
- KPIの達成状況は、経営目標とともに、社内役員の業績報酬に連動（株式報酬B）

## KPIの24年度目標の例

### 人と共に (With people)

マテリアリティ：「社員」「人権」

休業災害度数  
(100万時間当たり)  
前中計3年平均**0.65**からの  
継続的な低減

#### エンゲージメントサーベイ・スコア

国内：**75**以上  
グローバル：**85**以上

#### 女性管理職比率

グローバル：**13%**以上

DX、AI人材の育成  
3年累計受講者数

DX 実践/入門：**180/900**

AI 実践/入門：**30/90**

### 社会と共に (With business)

マテリアリティ：「顧客」「倫理・統治」「地域社会」

スマコン導入現場数  
24年度単年度  
グローバル：**13,000**現場

AHS累計導入台数  
グローバル：**740**台

マルチソーシング比率  
BCP対応  
**92%**

ガバナンス・コンプライアンスの徹底  
取り組み実績を開示

### 地球と共に (With the planet)

マテリアリティ：「環境」

生産によるCO2排出削減率  
2010年比△**45%**

再生可能エネルギー使用比率  
**20%**

製品使用によるCO2排出削減率  
2010年比△**24%**

建設鉱山機械の電動化推進  
開発ステップ、市場導入機種拡大



# 多様な人材がいきいきと働ける職場づくり（ダイバーシティ&インクルージョン）

- ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）とは、多様な背景や価値観を持つ社員同士が互いに個性や能力を認め合い活かし合っている状態。
- D&I推進をイノベーション創出と成長につなげるため、「多様性に富む人材基盤の充実化」を図る。

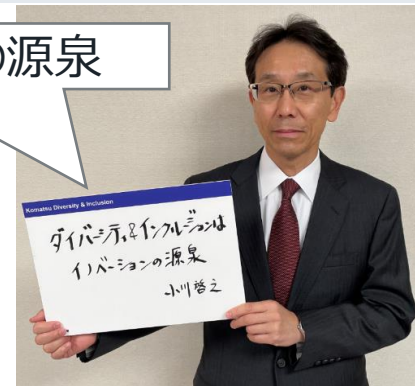
## コマツのD&I推進の考え方

活発で建設的な  
議論ができる健全な  
職場づくり

モチベーション  
向上や企業文化  
の変化

イノベーション  
の創出=  
会社全体の成長

D&Iはイノベーションの源泉



## 重点活動「多様性に富む人材基盤の充実化」

### D & I リテラシー向上活動（D & I プロモーション活動・アンコンシャスバイアスセミナー等）

#### グローバルな人材育成

- 社員の68%が外国籍
- 主要な現地法人トップ＝ナショナル社員



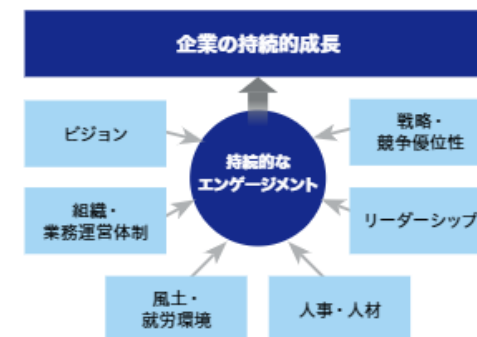
#### ジェンダー・ダイバーシティの推進

- 女性社員比率・女性管理職比率向上
- 女性リーダーを対象とした研修プログラム
- 経営層と女性社員の対話：  
トークイベントの実施（今年度4回）



#### 社員エンゲージメントの向上

- グローバルエンゲージメント調査を実施
- 地域・組織ごとの分析を反映した施策



# 目次

- 1.サステナビリティ推進本部の役割・体制
- 2.サステナビリティ基本方針
- 3.FY22～24中期経営計画におけるESG課題の解決
- 4.サステナビリティ推進本部のその他の活動について**

# 地球環境への取り組み

「地球環境方針」に基づき活動⇔サステナビリティ推進委員会でPDCA

## コマツ「地球環境方針」

### 基本理念

1. 持続可能な発展への貢献
2. エコロジーとエコノミーの両立
3. 企業の社会的責任を果たす

### 行動指針

#### ■ 地球環境問題への取り組み（重点4分野）

- ①気候変動への対応
  - 全ライフサイクルにおける温室効果ガスの排出削減
- ②循環型社会の構築
  - 投入資源及び廃棄物の削減
  - 循環型林業およびリマン事業の推進
- ③大気、水環境などの保全・化学物質の管理
  - 地域法令等の遵守
  - 使用する化学物質の確実な管理
  - 有害な化学物質の削減・代替・使用中止
- ④生物多様性への対応※

- 環境管理体制の構築（環境マネジメント国際規格ISO14001取得等）
- 社員への環境教育、環境に関するステークホルダーとのコミュニケーション

※2011年に「コマツの生物多様性宣言」および「コマツの生物多様性ガイドライン」を制定

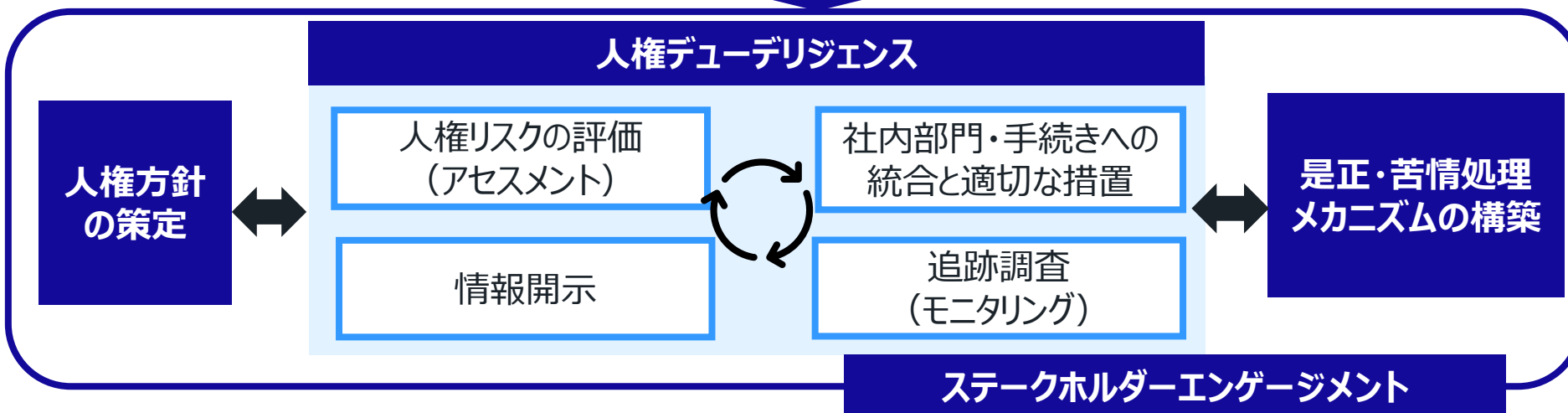
# 人権に関する対応

国連：ビジネスと人権に関する指導原則

①人権を保護する国家の義務

②人権を尊重する企業の責任

③救済へのアクセス



## 【コマツの主な取組み】

2008

「国連グローバルコンパクト」に署名

人権に関するリスクアセスメント（社外機関が実施）

CSR調達ガイドラインへの人権対応織り込み

「人権に関する方針」制定

「コマツ行動基準」に反映し社員に周知

代理店との新規契約・更新時に「人権の尊重を誓約する」条項織り込み

人権に関する理解を深める社員教育（e-learning）の実施

2022

コマツグループ内・サプライヤーならびに代理店や顧客を対象とした人権DD

# 社会貢献活動の事例

## 人と共に

地域人材育成支援



こまつの杜の活動  
(理科教室、花育活動)

事業活動で培った  
ノウハウや強みを活かした  
社会貢献活動

## 社会と共に



自然災害に対する支援

女子柔道  
への支援



新型コロナウイルス感染症  
医療用品の提供等  
(協力企業との協業)



地雷除去プロジェクト  
→農地復興



事業所フェア

## 地球と共に



森林再生プロジェクト



日本花の会  
への支援

社員参加型の貢献活動  
「One World One Komatsu」



# 地雷除去プロジェクト（農地復興）

- 2008年から日本外務省が支援するNPO「日本地雷処理を支援する会（JMAS）」と提携し、コマツの技術を活かした対人地雷除去機や建設機械で復興を支援
- 2022年11月 10校目の開校式（カンボジア）を開催し、小川社長も出席

地雷原

機械で素早く  
安全に除去

2022/11 小川社長によるカンボジアの地雷原視察（地雷除去機とともに撮影）



コミュニティの復興

道路整備・灌漑工事



小学校建設

2022/11 10校目の小学校が完成  
カンボジア・バンテイメンチエイ州での開校式典



農業用建機による  
農地復興



# 統合報告書「コマツレポート2022」

- ステークホルダーの皆さまに、中長期的な企業価値向上の取り組みをご紹介する目的で「コマツレポート（統合報告書）」を制作
- 「成長戦略による収益向上とESG課題解決の好循環で持続的成長を目指す」価値創造モデルと中期経営計画を中心に、取り組みをご紹介

**コマツの年次報告書の体系**（いずれの報告書もコマツウェブサイトから閲覧可能）

## コマツレポート（統合報告書）

有価証券報告書（財務活動に関する報告）

ESGデータブック（サステナビリティに関する報告）

## コマツレポート2022の主なコンテンツ

- ◆コマツの存在意義とサステナビリティ基本方針
- ◆コマツの概要と強み
- ◆社長メッセージ  
（次の100年に向けた経営課題と経営戦略）
- ◆CFOメッセージ（財務戦略）
- ◆中期経営計画（策定プロセス・成長戦略）
- ◆成長戦略によるESGの課題解決  
（気候変動対応・人材育成・社会貢献）
- ◆コーポレート・ガバナンス



# TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに沿った取り組み

- コマツは2019年度に賛同し、2020年度の統合報告書から開示
- 2022年度は1.5°Cシナリオ※での分析等により開示を充実

気候変動に関する  
リスクと機会を  
分析し戦略を公表

開示の  
枠組み

ガバナンス

戦略

リスク管理

指標と目標

※ 地球の平均気温上昇を  
産業革命以前に比べ  
1.5°Cに抑えるシナリオ

## 気候変動が及ぼすリスクと機会、およびその対応戦略（特定した4つのテーマ）

テーマ	リスク・機会（×リスク ○機会）	主な戦略
資源需要 の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>× 石炭需要減少</li> <li>○ 電動化関連の資源需要増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電動化関連資源のための坑内掘り機械拡大</li> <li>• 鉱山機械の自動化・遠隔操作等</li> </ul>
低炭素 製品 への移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>× 燃費規制の強化、開発・設備投資コスト増</li> <li>× 技術開発と競争軸の変化</li> <li>○ 電動化、次世代技術の進展</li> <li>○ リマン事業やスマートコンストラクションの需要拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 低炭素製品の開発</li> <li>• スマートコンストラクションなどのソリューション事業の拡大</li> <li>• 循環型ビジネスへの貢献</li> </ul>
製造 コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>× 炭素価格上昇によるコスト増</li> <li>○ CO2削減技術で競争力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CO2排出の削減</li> <li>• 再生エネルギー利用の促進</li> </ul>
自然 災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>× 異常気象による災害</li> <li>○ 国土強靱化のビジネス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大雨、洪水対策</li> </ul>



# TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに沿った取り組み

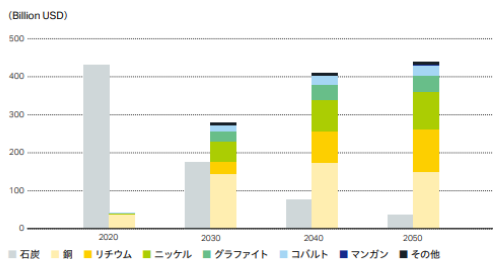
- 「コマツレポート2022」では、1.5℃シナリオに基づく戦略をより具体的に説明。
- 坑内掘りハードロック向け鉱山機械事業の拡大など、持続可能な資源開発と鉱山オペレーションのゼロエミッションの両立に向けた取り組みを紹介。

## 1.5℃シナリオ資源需要予想

国際エネルギー機関(IEA)の「2050年ネットゼロ排出シナリオ(NZE)」(1.5℃シナリオ)によると、脱石炭の流れを受け、石炭(ソフトロック)の需要は、2℃シナリオよりも更に縮小する見通しです。一方クリーンエネルギー技術に不可欠なクリティカルミネラル(重要鉱物)の需要が伸長すると予測されており、鉄、銅、金(ハードロック)等は、世界的な電動化向けの需要増

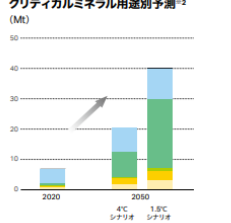
加等により堅調に推移する見通しです。世界情勢などによる一時的な鉱物需要の変化があったとしても、1.5℃シナリオ下では概ねこのような傾向で推移するものと予測されており、鉱物資源を採掘する鉱山会社を顧客に持つ当社の鉱山機械の売上げ推移についても同様の傾向になるものと予測しています。

### IEA 1.5℃シナリオ資源需要予測(金額ベース)<sup>※1</sup>



※1 Source: Based on IEA data from the IEA (2021) 'Net Zero by 2050 A Roadmap for the Global Energy Sector', <https://www.iea.org/data-and-statistics>. All rights reserved.

### 【参考】クリティカルミネラル用途別予測<sup>※2</sup>



※2 Source: Based on IEA data from the IEA (2021) 'World Energy Outlook 2021', <https://www.iea.org/data-and-statistics>. All rights reserved.

お客さまの現場の課題解決を通じて、  
持続可能な資源開発と鉱山オペレーションの  
ゼロエミッションの両立を目指します。

代表取締役 兼 専務執行役員  
マイニング事業本部長

森山 雅之



気候変動に関する意識の高まりから、世界はカーボンニュートラルに向けた大きな変化のなかにあります。我々のお客さまである鉱山会社にとって、鉱山オペレーション

は環境問題や地域社会との共存の観点から開発許可には時間がかかる見通しです。お客さまはこれまで以上に深度の高い場所や居住地域から離れた遠隔地での採掘



マイニングTBMトライアル  
チリ国営の鉱山会社  
コデルコ社と2024年度  
からトライアル開始予定



コマツGHGアライアンス  
鉱山会社のお客さまと共に「コマツGHGアライアンス」を締結、いかなる動力源でも稼働可能な「パワーアグノスティックトラック」の開発を目指す

以上